

とぎつちょう うちどく すいしん
時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

ていがくねん む あきごう
低学年向け 2025年 秋号



発行：とぎつちょうりつとぎつとしゃかん

家読とは

かぞく す ほん よ ほん
家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく（家読）」です。むずかしいルールはいりません。

かぞく ほん よ ほん
家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

かぞく おな ほん よ ほん
家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



「もりのてぶくろ」

八百板 洋子//ぶん ナターリヤ チャルーシナ//え
八百板 洋子//ぶん（福音館書店）

もり なか
森の中にてぶくろみたいな葉っぱが一枚落ちていました。ねずみがやってきて、そっとてのひらを重ねてみますが、「ぼくにはおおきいや」と行ってしまいました。あとからあとからいろいろな動物たちがやってきて、てをあててみます。ぴったりなのは誰かな？



「きのこはともだち」

松岡 達英/構成 下田 智美/絵と文
（偕成社）

あき きせつ もり なか
秋はきのこの季節。森の中にはきのこがいっぱい。きれいなきのこは、たべられないのもおおい。きのこのことがなんでもわかる絵本。見ているだけでも楽しい。

きのこをつか
きのこを使ったおいしいりょうりの作り方をのってるよ。



「本がきらい本がすき」

マリアホ イラストゥラホ//さく え
小川 紗良//やく（KTC 中央出版）

「たのしい夏休みに、本を読むのをわすれずに！」と先生は言った。せっかくの休みに本をよむなんて、そんなのいやだ！

しぶしぶおねえちゃんにつれられて図書館に行き、ちょっとぶあつい本をかりてきた。おねえちゃんにすすめられたからだ。

ページをめくり、読みだすと、「え？」ってなって、「うわっ！」となって…。いつのまにかぼうけんのたびに出ていた。



「ちょっとだけともだち」

ながかわ ちひろ//作（のら書店）

ぼくはともだちをつくるのがにがてな男の子。どうしたらともだちができるのかわからない。妹は幼稚園に入園したその日に、ともだちができた。おばあちゃんにだって、お母さんにだって、たくさんともだちがいる。でも、おじいちゃんにはともだちがいない。ぼくはきとおじいちゃんに似たんだなあ。ところが、おじいちゃんには「ちょっとだけともだち」がいた。

「ちょっとだけともだち」って何だろう？



「あんまりすてきだったから」

くどう れいん//さく みやざき ひろかず//え
（ほるぶ出版）

かしゅ うたごえ
歌手の歌声があんまりすてきだったから、ここをこめててがみを書きました。そのてがみがあんまりすてきだったから、はいたつしていたゆうびん屋さんは、思わずくちぶえをふきました。それを聞いたことりは楽しくなって…。幸せな気持ちもどんどんつながっていきます。いつしか読んでいる人にもつながって、幸せがとどきます。



「図書館のぬいぐるみかします3」

シンシア ロード//作 ステファニー
グラエギン//絵 田中 奈津子//訳（ポプラ社）

ほん おな か
本と同じようにとしゃかで借りることができるぬいぐるみたち。この3巻は、ユニコーンのぬいぐるみ「キラリ」のおはなし。

キラリの夢は、ずっと住める家で、その家の子どもになる事です。ある日、キラリを借りて行ったのは、さいきんこの街にひっこしてきたばかりのマヤという女の子。キラリはマヤと仲良くなり、夢をかなえることができるのでしょうか？